

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2022のご案内

日時 2022年9月12日(月)10時~16時30分

場所 オンライン(Zoom)にて開催

参加申し込み 下記事務局に8月26日(金)までに電子メール【宛先:茨城県農業総合センター園芸研究所 小河原 孝司(togawara@pref.ibaraki.lg.jp)】で申し込みをお願いします。なお、電子メールの件名は、「EBCワークショップ参加:本人氏名」として送付願います。申し込みをされた方には、会議参加のURL(ミーティングID・パスコードなど)および講演要旨(PDF)をダウンロードできる方法を電子メールにてご案内します。

参加費 無料

プログラム

第一部 近年問題となっている重要病害の最新研究

10:00~10:45 「コシヒカリマルチラインにおけるいもち病菌レース頻度の変化」

石川 浩司【新潟県病害虫防除所】

新潟県で2005年に導入したコシヒカリマルチライン(導入時の面積約9.4万ha)は現在も高い発病抑制効果を維持しています。本講演では、継続利用技術の基礎となったマルチラインにおけるいもち病菌の動態(レース頻度の変化)について紹介します。

座長:岩舘 康哉(岩手県農業研究センター)

11:00~11:45 「青森県におけるリンゴ黒星病DMI耐性菌対策のその後の状況と新たな強化策について」

赤平 知也【(地独)青森県産業技術センターりんご研究所】

青森県では2016年にDMI剤耐性菌の顕在化によりリンゴ黒星病が問題となり、翌年から予防剤主体の防除体系に変更しました。本講演では、その後の防除体系の評価と今回新たに構築した治療的効果を示す殺菌剤を配置した強化策について紹介します。

座長:江口 直樹(長野県果樹試験場)

11:45~13:00 一昼食・休憩

第二部 一般化線形混合モデルの活用とその方法

13:00~13:45 「ダイズ栽培における黒根腐病の発生リスク要因解析」

越智 直【(国研)農研機構・植物防疫研究部門】

東北北陸地域では黒根腐病の発生が深刻化していますが、発病に気が付きにくい上、低コスト栽培が求められる等の理由から防除されていません。現地圃場での被害実態や栽培環境の調査・分析から本病に係る要因を明らかにし、対策マニュアルを作成しましたので紹介します。

座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター)

14:00~14:45 「一般化線形混合モデルを用いた防除試験データの解析」

池田 健太郎【群馬県農業技術センター】

複数回の防除試験によって得られたデータの解析に、なぜ一般化線形混合モデルを使うのか、そしてどんなデータセットが必要で、どのように解析すればよいのかを、日植病報に発表した論文を通して詳しく解説します。

座長:田代 暢哉(プラントヘルスケア研究所)

第三部 ショートトーク 生産現場での実用例

15:00~15:20 「千葉県のナバナ圃場における根こぶ病菌のレース分布に及ぼす温度の影響」

久保 周子【千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所】

15:20~15:40 「一般化線形モデルによるハクサイ黄化病の発病に影響を及ぼす要因の解析」

星野 啓佑【群馬県農業技術センター】

15:40~16:00 「ナシの病害虫防除暦のエビデンス ~茨城県における黒星病・輪紋病の事例から~」

小河原 孝司【茨城県農業総合センター園芸研究所】

座長:川口 章(農研機構・西日本農業研究センター)

16:00~16:30 総合討論 川口 章【農研機構・西日本農業研究センター】

参加申し込み・問い合わせ先:

研究会事務局 茨城県農業総合センター園芸研究所 小河原 孝司(togawara@pref.ibaraki.lg.jp)